

午後 1 時 0 0 分 再開

○岡田議長 休憩前に引き続き会議を開き、市政一般に対する質問を続行いたします。

戸田議員。

〔戸田議員質問席へ〕

○戸田議員 会派自由創政の戸田隆次でございます。本定例会に当たりまして、大要 3 点、空き家対策について、日野橋について、道の駅について質問してまいりたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

まず初めに、空き家対策について質問してまいりたいと思います。

空き家が多数、市内には散見されるところでございますけれども、空き家の現状についてまず伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 空き家の現状についてのお尋ねでございます。市内の空き家の数及び推移につきましては、総務省統計局が 5 年ごとに実施しております住宅・土地統計調査によりますと、戸建て住宅のほかアパートなどの賃貸用住宅の空き家や売却用住宅、別荘などを含めた空き家の数は 2 0 1 3 年、平成 2 5 年でございますが、1 万 5 9 0 戸、2 0 1 8 年、平成 3 0 年でございますが、1 万 1, 7 7 0 戸、2 0 2 3 年、令和 5 年でございますが、1 万 2, 0 8 0 戸でございます。このうち賃貸用、売却用及び別荘などを除いた、いわゆる一般的な空き家の数は、2 0 1 3 年 4, 7 0 0 戸、2 0 1 8 年 4, 7 6 0 戸、2 0 2 3 年 5, 7 2 0 戸でございます。増加傾向にございます。

市が独自に令和４年から６年度にかけて実施いたしました空き家実態調査では、市内に４,２８９戸の空き家を確認しておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今空き家の状況を伺いました。２０２３年度５,７２０戸、そういう中で、いわゆる空き家って４,２００強の空き家があるという状況下でございますが、そこで、今のこの空き家の除却の補助制度について各市町村が対応しとるわけでもございますが、その現状について伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 空き家のうち特定空家の除却補助制度につきましては、各市町で補助率や上限額などが異なるものの、日吉津村と日野町を除く全ての市町で整備されておるところでございます。特定空家以外の空き家の除却補助制度につきましては、本市におきましては、今年度から準防火地域を対象といたしました老朽木造空き家の除却補助制度を整備しているほか、境港市、若桜町、湯梨浜町、琴浦町、大山町、伯耆町、日南町及び江府町において、それぞれの条件の下、整備されている状況でございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の補助制度についてはまた触れますけれども、空き家については特定空家で、特定空家になる前の空き家というふうに分類されておるというふうに理解しておるんですけども、そこでいろいろと補助整備はされておられますが、そこで、本市における特定空家と特定空家になる前の空き家の件数、この辺の状

況について改めて伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 空き家の実態調査では、空き家4,289戸のうち、特定空き家を含む429戸の管理が不十分でございまして、何らかの修繕や除却が必要だと確認しておるところでございます。空き家の数は流動的であるため、単純な計算ではできませんが、令和7年8月31日現在の特定空き家の数が63件であることから、特定空き家になる前の管理が不十分な空き家の数は約370戸程度あると推定しておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 特定空き家と、今、特定空き家になる前の件数伺ったんですが、件数の中では4,289戸あるという中で、その中で今の十分な管理が行き届いていないのが370戸ぐらいありますよという内容であったと思いますが、そこで、空き家全体が約4,279戸あるわけですけれども、年間における空き家の除却件数、今の実態を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 空き家の除却件数については把握をしていないところでございますが、空き家かどうかは不明でございますが、令和6年度に市に建築物除却届のあったもののうち住宅の戸数は194戸でございました。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 そうした中で、やはり本市には4,279戸というような、そういう空き家件数があるわけですけれども、除却件数がなかなか進んでおらないのが私は実態ではなかろうかというふうに

理解しておりますけれども、その除却件数に係るスピード感を私はもっと上げていく必要があるのではないかというふうに理解しておりますけど、その辺のところの見解はどのように考えておられますか。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 除却に関するスピード感についてのお尋ねでございます。管理が不十分な空き家の状況から、必要に応じた修繕、または除却が課題であると考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先ほど除却の補助制度について伺いました。本市については特定空家は上限120万円の補助制度を確立されておられるということでございますが、しかしながら他市町村については、特定空家になる前の空き家についても補助制度を確立しておられる。他市、今の隣の境港市さんについては60万円、これ5か年計画でしたか、補助制度を確立しておられるわけですが、そういうふうな中身がいろいろあるわけですが、空き家の除却については、先ほど来から申し上げますように、やはり住民サービスの、いわゆる住民の安心・安全の観点からいけば、除却のスピードアップを私はもっと図っていくべきであろうというふうに理解しておりますけども、その辺の当局の考え方を伺ってみたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 先ほど議員がおっしゃられました境港市では、空き家になってから1年以上経過した住宅について令和3年

度から令和7年度の5か年限定で除却補助制度が設けられておるところでございます。境港市のように状態を問わず、全ての空き家を対象とする方法もございますが、本市におきましては、状態の悪い空き家から優先的に除却を進めていきたいと考えておるところでございます。

そこで、先ほども申しました、今年度から特定空き家になる前の空き家のうち、準防火地域で倒壊の危険性がある老朽木造空き家について除却補助制度を導入しておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 準防火地域の補助制度を、約40万円でしたか、上限を、設けておられるという中身は私は理解するんですけども、しかしながら、この準防火地域というのは中心市街地が目的のような感じが受け取られます。また、今の郊外にはその辺のところが対応できないというふうに私は理解しておるんですけども、やはりそういうふうな中心市街地の一戸建て、郊外の一戸建て、これを同じ、私は押しなべていけば同一、いわゆる今の空き家であろうというふうに理解しております。ただ、準防火地区といえは密集地であるから、そういうふうな対応をされたというふうに理解するんですけども、市民目線からいけば、やはり同一の一つの空き家、郊外の空き家、準防火地域の空き家でも空き家には変わりはないだないかというような御意見もいただくわけですが、その辺のところはどういうふうに判断しとられますか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 議員言われるとおり、空き家という観点からいけば、

中心市街地も郊外もないというのは、そのとおりだと思います。このたび準防火地域に限って老朽木造空き家の除却制度、補助金の制度を設けましたのは、やはり火災予防といいいましょいか、火災の類焼予防、延焼予防というものが主眼のものだというふうに私も認識した上で、このような制度を設けさせていただいたというところでございます。昨年の１２月に中心市街地で火災がございまして、最初の１棟から、結果的に６棟ですね、類焼したということがございました。こうした中でもやはり中心市街地には木造の古い家が並んでるエリアが比較的多うございまして、必要なこのたびの補助制度ではなかったかなというふうに思っておりますので、そのような理解をしていただければ助かるところでございます。

○岡田議長　戸田議員。

○戸田議員　市長のそういう考え方を私はよく理解はするんですけども、やはり市民目線からいけば、先ほど申しましたように、同じような空き家であって、そういう補助が受けられないというのはいかななものかなというような御意見もいただきます。ただ、市長から今答弁ありましたように、密集地であるからそういうふうな対策を講じてきたというのも一つの考え方で、それも理解するところですけども、やはり市民目線からいけば、そういうふうな同じ空き家でも差別をするというのは私は一つ理解できにくい部分もあります。

そうした中で、やはり空き家については周辺環境に及ぼす、私は影響は大であるというふうに思います。住民生活の安心・安全の確保の観点からいけば、やはり私は空き家はある程度除却をし

ていくのが一つの考え方であろうというふうに理解しとるわけですが、今後とも増加することが想定されます。先ほども答弁がありました、4,300件弱の空き家だったということでありましたが、やはりそれをただ端的に数字で年に100件除却しても、40年間はかかっていくんだという、ただ数字的に考えていけば、そういうふうな端的な数字の表れ方なんですけども、やはり私は補助制度をある程度拡充をされて、今の空き家対策を講ずべきではないかと思いますが、市長の見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 空き家の除却補助制度の拡充についてでございますが、空き家の実態調査の結果によりますと、先ほど答弁あったかと思いますが、4,200件ほどですけども、そのうちの約9割は特に目立った損傷が認められず、利活用や流通の可能性もあるというふうに考えられるところでもございます。逆に言うと、残りの1割につきましては修繕や、あるいは除却の必要があるというふうな状況でございますけれども、空き家の除却が進まない原因には様々理由がございますので、除却を促す方法、補助制度に限らず、これは考えていかなければならないというふうに考えてございます。これについては、他の自治体の取組を参考にしまして、空き家の除却の促進に取り組んでまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今後考えていかなければならないという答弁でした。再質問いたしますが、じゃあ、私の今の考え方、補助制度の拡充

を図って、住民の方々に空き家の除却についての促進化を図っていくんだという私は考え方なんですけれども、やはり除却制度を、補助制度を拡充する前に、違った方法論もあるというふうな見解であろうと思いますが、その辺のところ、市長さん、考え方はお持ちですか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 空き家を所有者の方が放置される一つの動機として、固定資産税の住宅用地特例というものがございまして、土地の上にその住宅が建っている状態であると、土地の固定資産税が最大6分の1減額されるという制度がございます。これがあるために、むしろ放置したほうがメリットがあるのではないかというような考えの下、空き家が放置される傾向というものがあるのではないかというふうに考えております。

他の自治体におきましては、空き家を除去、除却した場合に、固定資産税の住宅用地特例の解除を猶予する、そのような手法を取っている事例もございます。一方で、メリットではなく、空き家を放置することはデメリットもあるということをより出していくためにも、今、国のほうでも制度が整ってきておりまして、管理が不十分な空き家につきまして、これを放置している場合に、市が所有者に対して必要な措置を勧告して、その勧告に従わない場合には固定資産税の住宅用地特例を解除するということができるというふうになっております。また、これはあくまで基本的には民事でしょうけれども、周辺住民などに損害を与えた場合には損害賠償を負う可能性があるということ。こうしたことをしっかりと所有者の方にも周知をした上で、早期の除却を促すようにし



ていきたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 国の事例、先進市の事例を披瀝していただいたんですが、やはり私は先ほど来から申し上げますように、補助制度の拡充っていうのは今一番即効薬なのかというふうに私は思っておりますけども、啓発事業も大変なウエートを占めておるんだろうというふうに思います。

そうした中で、空き家の除却について、補助制度等々についての啓発が薄いのではないかと私は理解しておりますけど、その辺のところはどのように対応しておられますか、伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 除却の補助制度につきましては、市のホームページや広報よなご6月号及び8月号の特集に記事を掲載しておりますほか、制度開始時には新聞、テレビなどのメディアを通じ周知を図ったところでございます。空き家の所有者は市外や県外に居住している例が多いことから、今後、準防火地域内の空き家所有者に対しまして案内を郵送するなど、周知を図っていききたいと考えておるところでございます。また、来年度以降は固定資産税納税通知書に同封しております空き家・空き地の啓発チラシにおいて周知を図っていききたいと存じます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 いろいろと議論をするんですけど、なかなか補助制度を拡充していくという前向きな答弁がないんですけど、私は、こういうふうな事案を皆さん方に披露していきたいと思います。

昨年でしたか、住民の方から、今の通学道路に自分の空き家の瓦が落ちて迷惑をかけております。そういうふうな観点から、空き家を除却したいと、そういうふうな意向を持たれて相談に来られました。なかなか財源的にも厳しいですし、いい方法はございませんかという御相談だったです。特定空家の補助制度はありますので、120万円上限でしたけれども、そのほうの補助制度がありますから、それを活用されたらどうですかということで御案内させていただきました。特定空家で対応になったので120万円の補助を受けられて、その空き家を除却されたというような事例がございます。

その方が言われますに、なかなかそういう情報が私たちには届きにくい、分からなかったと。ましてや、350万円ぐらいかかったんですか、その方が。120万円の助成があったときには本当に助かったと、うれしかったというふうに涙ぐんで訴えられておられましたけど、やはり私がこの問題を取り上げましたのは、先般もそういうふうな事例を御相談受けました。補助制度があって、活用されたらいいと思いますよという、背中を押すような形で御案内をさせていただいたんですけれども。やはりもっと、境港市は今の5か年計画で60万円の補助を適用、対応してきたと。境港市にできて本市にできないことはないというような考え方を私は持つておるんです。特定空家の上限の120万円補助制度、準防火地域の40万円の補助制度については私は理解しますけれども、空き家についての、他市にできて本市にできないというような考え方が、まずもって理解できない部分があります。聞き取りの場合でもそういうふうに議論をしたんですけど、やはり前向

きに、この問題については十分に議論していただいて検討していただきますように、強く要望しておきたいというふうに思います。この問題については以上で終わりたいと思います。

次に、日野橋について伺ってみたいと思います。

この問題についても６月に質問させていただいたんですが、日野橋については、全長３６５.８メートル、幅員が５.８メートルで、昭和４年５月に竣工して６年から供用開始をしておるということでございますが、約９５年が経過をしております。そうした中で、やはり９５年が経過した中でランニング経費はどのような状況なのか、まず伺っておきたいと思います。

○岡田議長　伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長　ランニング経費についてのお尋ねでございます。平成１２年の鳥取県西部地震以降でお答えをさせていただきます。地震による被災を受け、平成１５年から１８年に大規模修繕及び補強工事を事業費約４.５億円で実施いたしました。次に、定期点検を、平成２８年に約１,１００万円、令和３年に約１,７００万円かけて実施しておるところでございます。さらに、令和６年に修繕工事に向けた調査設計業務を約３,１００万円を実施いたしました。以上です。

○岡田議長　戸田議員。

○戸田議員　ランニング経費伺ったんですけど、このたびのＰＣＢの除去工事に約１３.５億円、予算措置されておられるわけですが、この修繕が終われば、この日野橋の延命化が私は図れるのでなかろうかというふうに思いますが、向こう２０年かどうかわかりませんが、どのような対応を考えておられますか伺って

おきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 今回実施いたします塗装の耐用年数でございますが、約20年間ということで見込んでおりまして、小規模な修繕が必要になることも考えられるところでございますが、想定外の洪水等の特別な外的な要因がない限り、この期間中は使用ができると考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 6月議会にも質問しましたが、下部工もしっかりしておると。今回の上部工の修繕によって20年間ぐらい供用できるのでないかというふうにお話しですけども、市長、20年間は供用できるということで理解してよろしいでしょうか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 技術的な見地からの考え方は、先ほど伊達部長から答弁があったとおりでございます。とにかく築100年にも及ぶようなこの橋でございますので、私のような素人からすると、技術的にあと20年大丈夫だと言われても、何かどっか心配なことがありやせんかなというのは、ちょっと心配なところもなくはございません。したがって、5年ごとに実施をいたします定期点検で適切に状況は把握してまいります。そのようなことをしていけば、先ほど部長からも答弁がありましたように、20年間の使用というものは可能であろうというふうに考えますし、現在、歩行者と二輪車だけの通行形態にしておりますので、そのことも踏まえれば、約20年の使用は可能であるというふうに考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 日野橋の20年間、今後供用できるという理解の考え方でございました。そうした中で、今回のPCBの除去に伴う修繕も行っていて、これから20年間のスパンで今の修繕料をシミュレーションしていく必要があるのではないかなというふうに思いますが、その辺のところは、当局はどのように判断しておられますでしょうか、その辺のところを伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 橋脚等の下部工については健全であるということの確認はしておるところですが、今回のシミュレーションはトラス部などの上部工のみを対象にしたものになりますが、今回実施いたします塗装の耐用年数を約20年と見込んでおりまして、今後は20年ごとの塗り替えに加え、老朽化に伴い必要となる部材等の修繕が必要になるものと考えておるところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 20年間のスパンで塗装修繕等がこれからは見込まれるという見解でしたけれども、そこで、20年ごとに約14.4億円、今のペースでいけば投じていかなければならないという理解であるというふうに思いますけれども、そうした中で、この日野橋にこれだけの巨費、20年間で延べでいけば年間に7,000万円の負担を講じていかなければならないということなんですけれども、その辺のところで当局はどのように判断しておられますか、そこを伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 本市では米子市橋りょう長寿命化修繕計画を策定しておりまして、市内の橋梁全体の維持管理費を年間約2.2億円と見込んでおるところでございます。仮に日野橋の修繕に約14.4億円を要する場合、先ほど議員おっしゃられました年平均で約7,000万円の財政負担となり、橋梁の維持管理費としては大きな額、その割合ということで考えておるところでございます。現時点におきましては、日野橋の在り方検討委員会から正式な提言をまだ受けておらない状態ではございますが、今後、委員会からの提言を受け、判断をしていきたいと考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の答弁の中で、橋梁に関する維持管理経費というのは年に2.2億円だと。そのうちの日野橋に係る経費が7,000万円ということなんで、約35%を占めていくんではないかなと。大きな財源を要していくんだというふうに理解しておるんですけども、そうした中で、先般、私、議員研修で、今のインフラに関する研修を受けてまいりました。そうした中で、やはり今のこの橋については管理者がいない橋、もう一つが、費用対効果の少ない橋が散見されるという説明でありました。そうした中で、やはり今の十分に当局が実証をされて、廃橋すべきものは廃橋していかなければ、これからは大変ですよというような見解、講師の方ですよ、そういう見解であったというふうに理解しておりますけども。そうした中で、これから今の人口減少化並びに生産年齢の減少化から、財源も乏しくなってくると。地方財政の財源も大変厳しくなってくるような状況下の中で、ランニング経費のかか

るものはある程度絞って削減をしていくんだというふうな、講師の先生の方だったんですが、そういうふうな考え方を当局はどのように持ち合わせておられますか、見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長　伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長　今後の人口減少や財政状況の変化を踏まえ、公共インフラの必要性につきましては、維持管理に係るコストも含めて、これまで以上に慎重な検討が必要であると認識しておるところでございます。橋梁につきましては、老朽化によりその維持管理費や更新には多大な費用を要することから、国においても機能の集約や撤去、統廃合を図ることの方針が示されておるところでございます。本市におきましても、こうした国の方針や地域の実情を踏まえ、周辺の交通の状況や必要性を検証し、将来を見据えて計画的に対応したいと考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長　戸田議員。

○戸田議員　国の方針等もいろいろと出てきておるわけですので、やはりそういうふうなことを踏まえて、今後、多角的に検討を要するのではないかなというふうに私は理解しておりますけれども。そうした中で、このたびの工事において約20年間を供していくということなんですが、20年間のスパンでいけば、このたび当局のほうで設置されました日野橋の在り方検討会、これを15年間を目安として、ある程度、20年後の前のやはり15年間を目安として在り方検討会を設置して、多角的に議論、検討すべきというふうに私は理解しておりますが、市長さんはその辺はどのよう

にお考えですか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 現時点におきましては、その在り方検討会のほうからまだ正式な御提言を受け取っていない状況でございますし、また一つの建前といたしましては、議員の御質問につきましては、それはもう時の市政が考えることであるというふうには思うわけでございますが、ただ、一つの目安といいましょうか、考え方をこの時点で申し上げておきますと、次の大改修の前の適切な時期には、やはりその在り方を検討する必要があるのではないかなというふうに思っております。そういう意味で考えますと、今後は５年ごとに定期点検があるわけでございますけれども、その定期点検の状況を見ながら、その次の大改修の前の適切な時期、遅くとも１５年後ではないかなとは思いますが、こうした時期を目安として今回と同様の検討会を設置して、地域の皆様の御意見や、あるいは専門的な見地からの意見を踏まえて、橋の存廃について考えていくことは必要ではないかなというふうに思います。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 なかなか答弁しにくいことを答弁していただきましたけれども、やはり私は、先ほども言いましたように１５年を目安にして、再度こういうふうな在り方検討会でいろんな見地から検討をすべきというふうに思っております。

ちょっと質問の視点を変えますけれども、６月議会でもしましたけれども、やはり本市は鳥取市に比して橋が少ない。やはりそういうふうな、朝の渋滞も相当見られます。そういうふうな構造的な観点からいけば、やはり橋の架け替えを私は積極的に国・県な



りにアプローチをしていくのが伊木市長の使命だというふうに思いますが、市長さんの考え方を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 議員御指摘のとおり、本市におきましては、例えば鳥取市の千代川に比べますと橋の本数が少ないということは御指摘のとおりでございますし、そのこともあるとは思いますが、日野川の兩岸の周辺道路、特に日野橋付近の車尾、観音寺辺り、日野川の左岸ですね、あの辺りの渋滞というのは、特に朝方でしょうか、非常に長い渋滞が発生していたりするものでございますので、その打開策というものは何らかの形で必要だというふうに考えてございます。そうしたことを踏まえまして、橋梁を含む交通ネットワークの整備につきましては、国や県などに働きかけながら、これは考えていかなければならない問題だというふうに思います。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 日野橋について、6月議会なり今期定例会にもいろいろと議論させていただきましたけど、本当に難しい問題だと思います。有形文化財の観点並びに歩行者の利便性の確保、もう一つが、先ほど来から議論しておりますように今のランニング経費の増大というような、3つの大きな要素が私は含まれておるんじゃないかなというふうに理解しております。そういうふうな中で、今の15年後には新たに在り方検討会を設置して検討していくんだというような前向きの答弁もいただきましたけども、やはりそういうふうな観点を踏まえながら、今後の日野橋の在り方について十分に多角的に議論をしていただきたいというふうに、これは

強く要望しておきたいというふうに思います。この問題については以上で終わりたいと思います。

次に、道の駅について質問してまいりたいというふうに思います。

道の駅についてでございますが、鳥取県内における道の駅の整備状況について、まず伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 県内の道の駅の整備状況についてということでございます。鳥取県内の道の駅は17施設ございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 17施設でございまして、先般、今の供用開始されました北条の道の駅について、どのような状況なのか伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 道の駅ほうじょうは、地域に愛され、北条砂丘の魅力に満ちた交流拠点ということをコンセプトに、北条砂丘から北栄町を元気にすることを目的に、令和5年度から令和6年度末の2年間で整備されたものでございます。総事業費は約29億円で、国と北栄町で費用を負担し、合併特例債や農山漁村振興交付金などを活用して事業を行ったと伺っておるところでございます。総敷地面積は約10万6,000平方メートルで、山陰自動車道北条道路を挟んで南エリア、北エリアに分かれておりまして、駅舎があります南エリアは約1万8,000平方メートル、オートキャンプ場などがある北エリアは約8万8,000平方メートル

ルとなっております。駅舎の延べ床面積は約1,660平方メートルで、情報提供施設、物販施設、飲食施設、屋内のキッズコーナーや中庭、芝生広場などのほか、附属棟として防災倉庫も整備されておる状況でございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 ありがとうございます。先般、家族で、家内とですけれども、道の駅ほうじょうを訪れてみました。大盛況でございました。そうした中で、やはり本市にも、ぜひともこういうような道の駅ができたらいいのになあと家内と話をしておったところでございますけれども。米子一境港間の高速道路、これは大歓迎なんですけれども、やはり、ずっと申し上げておりますように、この高速道路が整備された場合には素通り感が否めないではないかなというふうに私は理解しておるんですけれども、そうした中で、ほうじょうのように10万で、これオートキャンプ場が約8万8,000平方メートルあるので大きな施設なんですけれども、そういうふうなことを考えれば、やはり私は、ザ・米子というような道の駅を整備したらいいじゃないかと。何遍も申し上げますけど、その辺のところいかがでしょうか。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 米子一境港間の高規格道路を利用して観光などで訪れられた方が本市を素通りしないような施策は、重要であるということで考えておるところでございます。その手段として、道の駅は施策の一つであるということで考えますが、本市といたしましては、本市内で観光などをしていただくことが重要だと考えておるところでございます。今後、米子一境港間の高規格

道路が具体的に計画が示された際には、新たな道路ネットワークによる人流や物流の変化を想定しながら、インターチェンジ周辺の土地利用をはじめとする、本市を素通りされないための地域振興策を検討する必要があると考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先般、会派で今の前橋市の道の駅を視察させていただきました。大きなものでして、4つのゾーンに分かれておりまして、約60億円の投資をしたように伺っておりました。中には、国土交通省と同一した計画をしながらそういうふうな巨費を投じた。この中で、国庫補助金は国交省の補助金等を、多彩なメニューを活用したというふうに私は伺ったんですけれども、そうした中で、道の駅を整備するに当たってはどのような国庫の補助メニューが該当するのか、その辺のところを探求されておられますか伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 道の駅を整備する際の補助メニュー等のことですけれども、道の駅の整備のための支援メニューは、国土交通省をはじめ各省庁で用意されておることは承知しておるところでございます。国土交通省の社会資本整備総合交付金や総務省の地域活性化事業債などがございます。本市が事業を実施する際は、全ての事業について同じではございますが、その事業計画などに基づき、本市が活用可能な支援メニューを最大限利用して実施することになると考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 道の駅ほうじょうの財源内訳について、一般財源をほとんど使わなかったというふうに私、仄聞してるんですけども、その辺のところ調査しておられますか。その辺のところを伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 道の駅ほうじょうの財源でございます。道の駅ほうじょうにつきましては、国と北栄町で整備されて、先ほど申し上げました総事業費約29億円と伺っており、そのうち北栄町の事業費は約17億円と伺っておるところでございます。財源につきましては、合併特例債や緊急防災・減災事業債、農山漁村振興交付金などのほか、国土交通省の負担金などを利用されたと伺っており、議員おっしゃるとおり、一般財源は利用してないと伺っておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 いろいろと補助メニューあるんですけども、一般財源を使ってないと。私、びっくりしました。それだけ工夫をされたのかなというふうに理解をしておるんですけども。そうした中で、米子と境港の高速道路が整備された場合、先ほど申し上げましたように本市が素通り感が否めないではないかなというふうに私は思うわけですけども、そこで道の駅を整備して、先ほど答弁がありましたように、本市の観光施設を歩いていただくんだというふうな一つの考え方であろうというふうに思いますが、やはり今の米子駅前とか彫刻ロード、米子城山、湊山公園、水鳥公園と、観光名所いろいろあるわけですけども、そういうふうなところを歩いていただくのも一つの考え方。また、皆生温泉に誘導して

いくんだというのが一つの私は使命であろうというふうに思うわけですが、そういう考え方の中で、私は、この道の駅をやっぱり精力的にもっと活用すべく整備をしていく必要があるのではないかなというふうに思いますが、市長さん、いかがですか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 観光という観点でいけば、現在、米子市では皆生温泉の海岸の遊歩道の整備ですとか、あるいは米子城跡の三の丸広場の整備などを進めて、観光客の受入れ環境の向上に取り組んでいるところでございますし、また、あわせまして、本市の観光資源の情報発信、これを行いまして、観光客の誘客ですとか、あるいは誘導を促進して、特に皆生温泉や、あるいは駅周辺の宿泊につなげるような取組を行っているところでございます。

道の駅につきましては、いろいろ他の道の駅見渡しますと、地域産品ですとか土産物の販売などによりまして観光誘客に一定の効果がある、そのように認識をしているところでございます。米子一境港間の高規格道路の事業化に向けまして、今後の進展に合わせて新たな道路ネットワークによるまちづくりを考えていく中で、振興策の一つとして検討していくこととなるものと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の高速道路の整備に並行して、地域振興策を整備していくんだというふうな御答弁でなかったかというふうに私は理解しますが、そうした中で、やはり具現化はいつ頃図られていくのかなというのが一つの考え方なんです、その辺のところはどのように考えておられますか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 具体的には、米子一境港間の高規格道路の計画が示されることと並行しまして、この道の駅も地域振興策の一つとして検討していくものになると考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 並行してということですが、それで、道の駅については、先ほども申しましたようにほうじょうの道の駅を見させていただきましたが、第一次産業にも相当注力しておられるような感じが受け止められました。農産物、地産物も販売されて即売をしてるような状況下のようにはうかがったわけですが、そういうふうな考え方で、やはり、道の駅はザ・米子というふうな、私が独り合点で言っとるんですけども、ザ・米子というような道の駅を私は整備すべきでないかと思いますが、改めて市長さんの見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 道の駅の効果というところをいかに狙っていくのかという観点であるというふうに認識をしております。全国の道の駅の状況をいろいろと見ておりますと、道の駅の集客状況によっては、町なかへの人々の流入につきまして影響があるということもあるものと伺っているところでございます。したがって、既存の民業圧迫にならない配慮というものは一定必要であるというふうに考えておりますが、一方で、議員が言われますように、地元の農産物や地産地消ですとか、あるいは第一次産業の活性化につきましては、これは本市としても重要な取組であると認識をしております。したがって、今後、インターチェンジ周辺の地

域振興策を考えていく中で、本市なりの振興策を検討していくことが必要であると、そのように考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 最後に要望にしますが、やはり先般も、テレビで道の駅の重要性というのをクローズアップしておられました。その観点といいますのが、防災拠点の併設をしていくんだというような形で、防災拠点がこれから求められていく。米子アリーナについても、今般も防災倉庫を設置されるというふうに伺っておるんですけども、道の駅をどんどん整備して防災拠点として併設をしていくんだと、それで住民の方々の安心・安全を提供していくんだというような状況は創出していかなければならないというふうな説明はあったんですけども、私は、そういうふうな観点からいけば、道の駅も、今のほうじょうにしても、どこの道の駅に行かせていただいても、やはり防災の施設を併設してるというのが実態であったというふうに伺っております。前橋についても相当すばらしい防災拠点として利活用しておられるというのを説明を伺ったわけですけども。

元に戻りますけれども、私は、道の駅、やはり皆さんも期待しておられますし、市民の方々も相当御意見もいただきます。いつできるんだろうかなというふうな期待感も伺うわけですけども、今の米子一境港間と並行して地域振興策として具現化を図っていくという市長さんの答弁でしたけども、できるだけ早くその具現化について事務着手をしていただくように、私は強く要望して、以上で質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。